



を受所頂きれてみてよいがでしょう。 と返答されました。 そして、大国主命とハ上姫の恋のキューそして、大国主命との上姫の恋のキューをのゆかりの地のひとつが、ハ頭町福本にある「白兎神社」です。 大いにじえより白兎神への信仰が脈々と 見づいています。白兎伝説の里・ハ頭町の りにでいます。白兎伝説の里・ハ頭町の まずだえ 象徴として現代に蘇ったのがこの兎のオブジェ(神ウサギ)です。 おおくにぬしのみのオブジェ(神ウサギ)です。 おおくにぬしのみこと 神話の中で、オホアナムギ(大国主命)の 教えに従って元通りの体になった兎は、 やそがみ かもとは出来ないでしょう。あなた様 入れることは出来ないでしょう。あなた様 か手に入れられるでしょう。(と予言しま

八頭町役場産業観光課商工観光室 〒680-0495 鳥取県八頭郡八頭町船岡539 TEL.0858-72-0144 FAX.0858-73-0290 http://www.town.yazu.tottori.jp/

縁結びの神ウサギ

## 白兎伝説の里 八頭町

えられます。でに見つかった遺跡からすると縄文時代の後期頃からと考い頭町には、いつ頃から人が住み始めたのでしょうか。これま

平野ではハ上郡の郡衙(古代の郡の役所)や古代の寺院(土る地域で、土器の一大生産地として知られているほか、国中私都の谷は、県内でも最も多くの古代の窯跡が見つかってい

くから大きな勢力があったことが考えられます。師百井廃寺)の跡が発見されていることから、八頭町には古

くから大きな勢力があったことが考えられます。

ることがうかがわれます。この地には、天照大神降臨伝説と石山・中山の麓に集中しており、この地が特別なエリアであまた、町内にある約五〇〇基の古墳のうち約二〇〇基が霊

白兎伝説が残っています。





ます。白兎神社の鳥居は安永五年(一七七六年)、額には文政内神の厨子に彫られた波ウサギは江戸時代の作とされてい建され、今日に至りています。建され、今日に至りています。建され、今日に至りています。からは、今日に至りています。





## 古事の道しるべ

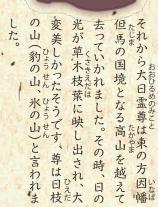


使品された時、山頂に行宮 体臨された時、山頂に行宮 をお見渡しの際、一匹の白方をお見渡しの際、一匹の白方をお見渡しの際、一匹の白ったとしょうをく い兎が現れ、尊の装束の裾をくわえて道しるべをしたそうくわえて道しるべをしたそうくわれた時、山頂に行宮

どまられました。 いままいし 呼ぶのもその故です。ここに行宮を営み、しばらくと す。現在その石を皇居石と呼び、そこを伊勢が平と す。現在その石を皇居石と呼び、そこを伊勢が平と でまられました。

時、道しるべをした白兎は消えていました。それは白河をよみのみととです。その後、道祖白兎です。その後、道祖白兎です。その後、道祖白兎です。その後、道祖白兎です。その後、道の中山の尾にかる。

神としても祀られています。神としても祀られています。また、中山の西の面の半場という所に石があり、尊がといり、中山の西側を霊石山と号するのは、この岩を表しり、中山の西側を霊石山と号するのは、この岩を表しり、中山の西側を霊石山と号するのは、この岩を表しり、中山の西側を霊石山と号するのは、この岩を表しています。また、雪石山に道しるべした故に、道祖神のでいます。また、雪石山に道しるべした故に、道祖神の神としても祀られています。



録い神代のはるか昔のことではあ ない神代のはるか昔のことではあ ない神代のはるか昔のことではあ での戻り道としています。 までその古事は伝わっています。 までその古事は伝わっています。 はまずが、今でもその山を伊勢 はまずその古事は伝わっています。



七年(一八二四年)と彫られています。